

## 私の教育実践 ～児童生徒とともに成長しながら「雑学の大家」を目指して～

愛媛県立宇和特別支援学校 校長 松本 淳

高い志や目標を胸に教員になられた方や教員を目指されている方には誠に申し訳ありませんが、私の教員志望の動機は、ただ私自身の高校生活が楽しく、級友や先生方と充実した時間を過ごせたため、それを一生続けたいと思ったことです。

そんな私の教員生活は新居浜工業高校数学科教員として始まりました。校内には「鍛」の石碑があり、その意味を調べるうちに宮本武蔵の五輪書



(水の巻)の「千日の稽古をもって鍛となし、万日の稽古をもって錬となす。」に出会い、何事も千日、つまり3年はあきらめずに継続しようと思ったことを昨日のように覚えています。そして、周囲の方からの助言や初任者研修等で教員として必要な多くの資質や心構えを教えていただきました。その中で、私が今でも忘れられないのが「雑学の大家であれ」という言葉です。失礼ながら、今となってはどなたの言葉であったかは覚えていませんが、「浅くてもよいので広く多くのことに興味を持って学び、体験してください。」との意味だったと思います。また、「数学の教員が良い数学の授業をするのは当たり前で、すべての教員が努力しています。それ以外にどれだけのことをやれるかが教員の力量です。人としての魅力も身に付けてください。」とも教えていただきました。当初はこれらの言葉が持つ意味を理解していませんでしたが、教員生活を続けていく中で徐々にわかってきました。

私は数学が好きで、数学的な見方・考え方の有用性を日々感じていますが、すべての生徒がそう思っているわけではありません。数学を苦手として、避ける生徒も大勢います。そんな数学にまったく興味がない生徒にとっては数学の教員である私の話や授業にも興味がわきません。人が最も話に耳を傾ける対象とするのは、尊敬する人や好きな人です。数学の授業に興味を持って集中してもらうためには、生徒が私自身に興味を持てるように工夫する必要があると感じました。そこで、私の数学というテリトリーに生徒を引き込む前に、あえて生徒の興味・関心のあるテリトリーに私が飛び込んでいくことで、同じ立場や目線で話ができるように心掛けました。

初のホームルーム担任が新居浜工業高校電子工学科でしたので、担当した生徒が興味を持って頑張っている第2種情報処理技術者（現行の基本情報技術者）や電話級アマチ

ュア無線技士(現行の第4級アマチュア無線技士)の資格取得を生徒とともに目指しました。そして、その中で生徒と意見を交換できる機会を作りました。その後の勤務校でも生徒とともに2級小型船舶操縦免許、危険物取扱者乙種などにも挑戦しました。運動面でも顧問となった各部活動の練習に可能な限り参加し、生徒とともに愛媛マラソンも走りました。当然、私自身が必要と感じるスキルアップにも貪欲に挑戦しました。数学会での県や全国の研究大会での発表の機会を自ら求め、積極的に挑みました。また、高等学校数学の教員免許を一種から専修にし、高等学校情報一種、図書館司書教諭資格も取得しました。

教頭として赴任した宇和特別支援学校(知的障がい部門)では、これまでの経験やスキルの大半が役に立たず、衝撃を受けました。学校訪問や県総合教育センターでの研修等でしか関わりがなかった特別支援教育であり、実践を伴う本当の意味での経験は皆無でした。知識・経験ともに特別支援教育を専門とする初任者教員にもかなわない状況で、日々周囲から教えを乞いながらの勤務でした。少しでも活動に生かせるようにと特別支援学校教員免許二種の5領域(視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱)を取得するための講座にも参加しました。その努力を認めていただいたのか、校長として再び宇和特別支援学校に戻ることができました。ただ、知的障がい部門だけの担当であった教頭時代とは大きく異なり、聴覚障がい部門及び肢体不自由部門にも関わることとなり、現在は聴覚障がい部門の児童生徒の情報保障の一環として式辞を自らが手話で行うことに挑戦しています。

振り返ってみると、児童生徒の興味・関心や、将来の目標達成のために私が提供・還元できることは勤務校によってそれぞれ異なっていました。その度に、私なりにそれぞれの学校において自分ができることを探し、一意に取り組んできた結果が先ほど述べたような脈絡のない本当に幅広い経歴になります。ただ、そのおかげで私自身の見識を広げ、成長させることができました。今でも校長室から出て、児童生徒の活動に可能な限り関わり、まずは私自身が誰よりも学校を楽しんでいます。

最後にそんな私から、これからを担う教職員の皆さんへお伝えできることがあるとすれば「皆さんは、学校とは児童生徒を成長させる場だと思いませんか。学校はそこに関わるすべての人を成長させる場です。そこには教職員も含まれます。皆さんにとって児童生徒は教え、諭す対象ではなく、ともに学び成長していく友です。児童生徒からも多くのことを学びながら、皆さん自身が持っている可能性を広げ、伸ばしてください。そして、児童生徒とともに学校生活を大いに楽しんでください。」ということです。